

## コリント人への手紙 第二 5 章 14-21 節

## 赦しと和解と平和

5:14 というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。

5:15 また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。

5:16 ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。

5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

5:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

5:19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

5:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義となるためです。

## はじめに

先週新しい契約の約束について話をした際に、罪の完全な赦しは聖書の全ての約束の土台だと言いました。罪の赦しを頂いた人は聖書にある神様の全ての約束を自分のものとして受け止める事が出来ます。イエス様の十字架によって示されている無条件的の愛は赦しの最大の模範です。十字架上の祈りによって一番明白に示されています。

ルカ23:34 「そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。」今日はその無条件の愛の目的について更に詳しく話をしたいと思います。聖餐式もありますから、それに一番ふさわしいテーマだと思います。

## 1. キリストの愛による赦し(14節)

コリント第二5:14 「というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。」

英語の翻訳では、最初の部分が “the love of Christ compels us “ (キリストの愛が私たちを突き動かす) というように、心の動機を指して書かれています。つまり、なぜ私達がこう考えているかと言いますとキリストの愛がそうさせて下さっているからです。

ローマ5:8-10 「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

5:9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

5:10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」

最近、すべての信者が暗記すべき神様の約束を毎週見っていますが、今日のこの箇所もその一つです。皆さんに是非暗記して頂きたいその理由は、クリスチャンになってからでも、誰でも失敗して罪を犯す事があるからです。その時必ず思い浮かぶのは、「神様に赦されたのに、その赦しの上に更に罪をおかすことはゆるされないはず」という思いです。この箇所全部を暗記出来ないなら、10節だけでも是非暗記して下さい。

5:10 「もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」 いつも言いますが、聖書の「なおさら」と書いてある言葉を特によく理解して覚えて頂きたいです。この御言葉には2回も和解と言う言葉が書いてありますが、聖書の和解の意味は完全な赦しによる和解です。完全な赦しのない和解はあり得ませんが、和解の話には後でまた戻りたいと思います。

キリストが私達を赦して下さったのは、悔い改めた時ではありません。まだ敵であった時、全く悔い改めていない時、十字架の上で「彼らをお赦し下さい」と祈られた時が、赦して下さった時です。その祈りは実際に2000年ほど前に直接関わった人だけの為ではありません。「一人の人が全ての人の為に死んだ以上、全ての人が死んだのです。」とあるように、キリストを十字架に付けたのはあなたと私と全人類です。これが無条件的な愛の赦し方です。

5:21 「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。」

死んで下さっただけではなくて、呪いとなるために罪とされたと書いてあります。

罪を全く知らない神のひとり子が、父なる神様との交わりが切れた事のない方が、初めてその交わりが切れる経験をされました。

マタイ27:46 「三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。」聖なる神様は罪との関わりを持つ事が出来ないの、自分から、愛するひとり子と初めて交わりを切って、イエス様の肉体の痛みよりも更にひどい、心が裂かれた痛みで私達の罪を赦して下さいました。それが私達の為に罪とされたという意味です。それによって私達は赦された上に神様と交わりを持つ事が出来るのです。

## 2. 罪の悔い改め (15節)

コリント第二5:15 「また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。」

これが罪の悔い改めによる人生の最大の方向転換です。罪の悔い改めが出来る人はイエス様の愛による一方的な赦しが分かった人だけです。なぜなら、罪を悔い改める人はもはや、自分の為に生きるのではなくて、イエス様の為に生きて行こうと決心する人だからです。

誰でも、悪い事をして罪悪感や罪意識を経験しますが、それは人に対して悪い事をしたと言う意識があるだけです。罪を悔い改める事が出来る人は神様に対して罪を犯したという意識のある人なのです。

世間一般で反省や後悔と呼んでいることは、この点で罪の悔い改めと違います。人々は後悔しても反省してもずっと同じ罪を繰り返す事があります。全ての人は同じ罪の性質を持って生まれているため罪の奴隷ですが、そこから救われる為にイエス様は神様の性質を信者一人一人に与えて下さいます。あなたがたも悔い改めないなら、同じように滅びる、とイエス様は自分の弟子達に言いました。神様は今、すべての人に悔い改めるように命じておられると聖書に書いてあります。

使徒17:23 「私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に。』と刻まれた祭壇があるのを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。

17:24 この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。

17:30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。」

イエス様の最初の説教は悔い改めて福音を信じなさい、福音は神様による罪の赦しの良い知らせです、というものでした。

マルコ1:15 「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」

最初に悔い改める罪は不信仰なので、悔い改めて福音を信じなさいと書いてあります。一番人間が分かっていない罪は不信仰と言う罪です。なぜなら、誰でも不信仰と言われたら、神様の存在を信じていない事として考えてしまいます。聖書が教えている不信仰の罪は自分の為に生きる事です。今日の箇所「キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです」とあります。

神様の御心を求めないで自分だけで自分の生き方を決める事が不信仰と言う罪です。分かりやすく別の言葉で言いますと神様から離れて生きていることが不信仰と言う罪なのです。神様を求めようとしない、自分を中心とした生き方です。神様の聖霊の助けがなければ誰もそれが罪だと分かりません。それでイエス様は聖霊が来るとその罪が分かるように助けて下さいますと言われました。苦しめる目的ではなく、悔い改めて赦されるためです。

ヨハネ16：8 「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。16:9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。」

この御言葉ではイエス様が聖霊の働きによって三つの事を認めさせられますが、その一番最初は罪です。何の罪かと言いますと、それは「私を信じないからです」の部分に答えがあります。神様の言葉と呼ばれているイエス様を信じないから、不信仰です。先週にも学びましたが、神様を真剣に求める人は、つまり神の御心を行おうと願う人は誰でも、イエス様の言葉が神様の真実な言葉だと分かります。

イエス様の教えた事をまだ沢山知らなくても、どのようにして全てが実現されて行くのが分からなくても、神様の言葉として確信を持って知る事が出来ます。

不信仰を悔い改め、イエス様を通して神様を求めれば、その人の全ての罪が完全に赦されます。全部の罪をいちいち告白するのは不可能なので、これだけを認めて神様に告白すれば、全ての罪が完全に赦されてきよめられます。クリスチャンになって全てが赦された後でまた罪を犯してしまったら、その罪だけを悔い改める事が出来るのです。

ヨハネ第一1:9。「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」これも是非暗記して頂きたいです。その前の7節に書いてある神様との交わりを経験した後に来ている箇所です。

### 3. 和解(16-18節)

5:16 「ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。

5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

5:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。」

イエス様は私達の罪の被害者になりましたが、赦す事によって全ての罪と死に打ち勝って本当の平和をつくる唯一の方法を見せて下さいました。赦すのは被害者にかかる責任ですが、和解するのは加害者にかかる責任です。平和は一人で作れる物ではないので、加害者として私達が悔い改めて赦しを求める瞬間に、神は私達を受け入れて神と和解させて下さいます。神様と和解をさせて頂いた証拠に今まで経験した事のない平安が心に入ります。その平安とは神様との平和の中で生きている事です。それを経験する人はどんなに罪深い人生を歩んで来た人でも必ず変わります。

v16節-まずイエス様に対する目が変わり、もはや未信者の世の目で見える事はありません。未信者の目はイエス様を沢山の宗教創立者の中の一人と見ます。信者の目ではイエス様を唯一の人類の救い主として、そして永遠に生きている神のひとり子として見れるようになります。

v17節-心の中が神の子どもとして新しく生まれた事によって、自分の価値観は最大の変化を経験しています。具体的に言えば、神様とその御国が実際にあるように見えるようになって、この世の物を第一に求める生き方をやめる事が出来ます。神の国とその義の為に生きる事が出来るようになります。

v18節a-全て、神様を中心にした目で見れるようになります。

v18節b-これを経験している全ての人に、つまり神様の子どもになったすべての人に和解の務めを与えられています。

v19節-「和解のことはゆだねられたのです」これは聖書で平和の福音と呼ばれている御言葉です。もちろん、全ての信者が説教者や伝道師になる事はありませんが、イエス様によって自分が神様と結ばれた事を証する事が出来ます。証人として生きることが出来るようになっているのです。

5:20 「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。」

全てのイエス様の信者がキリストの使節として召されています。人はだれでも、自分の国の大使として任命されて国を代表するように選ばれたなら、最高に光栄に思います。神様の全ての子どもにその特権が与えられています。神様をまだ知らない人々も、赦しを求めることによってこの素晴らしい和解と平和を経験するように、また貢献出来るようになります。人間は神様との平和を知らない限り、他の人とも本当の平和を生きる事が出来ません。暴力がないという意味の平和ではなくて、憎しみも、恨みも、差別もない赦し合える本当の平和です。

**Conclusion.**まとめ。

祈る時はキリストが教えたように無条件的に全ての人を赦す愛を持って祈らなければなりません。

「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく我らの罪をもお赦し下さい。」とある通りです。

イザヤ書52：7「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあって、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。」 良い知らせ、平和の告げ知らせ、この二つが合わせて平和の福音と呼ばれます。全ての神の子どもに全ての神の約束が与えられていると同じように、全ての神の子どもは平和を作る人として召されています。神様との平和を人々にもたらす使命です。

マタイ5:9. 「平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです。」